

写真アルバムから

シリーズC 寺社華風月 (白黒)

C9 宇和・高知 1975

森隆一



遊子村



足摺岬周辺

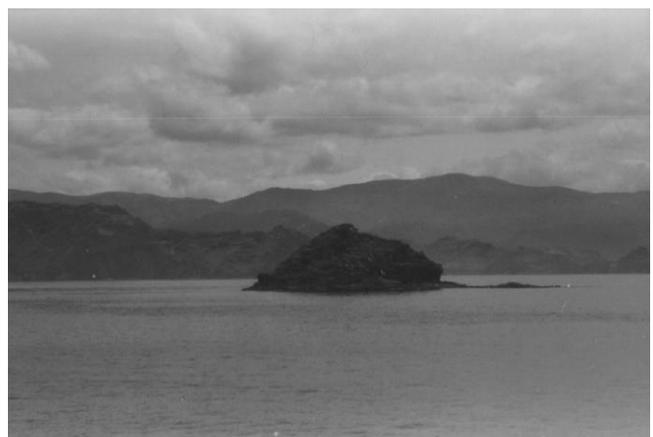
(Google Mao)

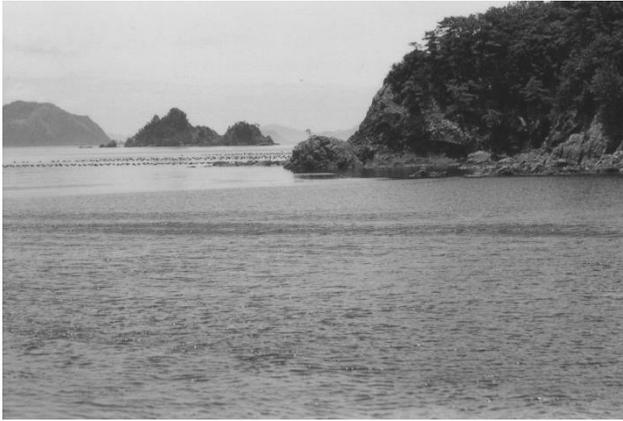
C9. 宇和・高知 1975

愛媛共済会館で、愛媛県南部での観光を聞き、宇和海を勧められた。共済の保養所はないかと尋ねたが、代わりに民宿を紹介され、2泊を予約した。この宿の場所と名前が全く思い出せない。自分で探したり、予約をとらないと記憶に残らないということのようである。

宇和

覚えていることは、宇和島からバスに乗って行ったことである。Google Mapからは、今は宇和島市になっているが、遊子村ではなかったかと考える。海岸と遊覧船に乗って写真を撮っていた。



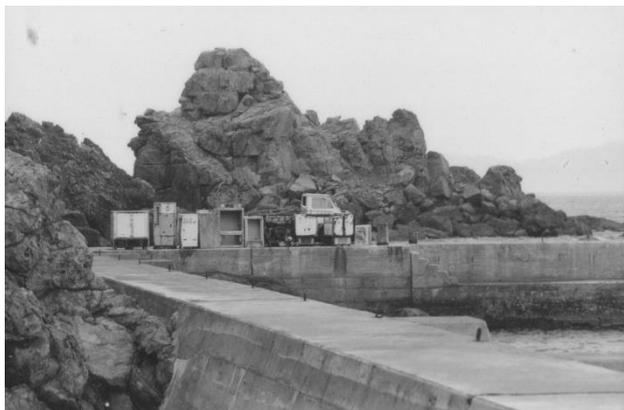


上の5枚の写真は遊覧船から撮ったと思われる。

足摺岬

宇和島からは足摺岬に向かったが、土佐清水を通ったこと以外は経路を覚えていない。予土線で中村駅までいき、土佐清水に直行したか、宿毛を回ったかであるが、前者の可能性が高い。

次の4枚の写真は、土佐清水市大浜か **足摺岬**の伊佐漁港と思われる。



金剛福寺

金剛福寺に着いたときは、昼を少し過ぎたときであった。ここで、写真を撮った後に高地に行けば、行けたとしても夜になるので、宿がとれれば、宿泊することにした、寺の近くに国民宿舎が見つかり、ここに泊まることが出来た。夕食で、カツオのたたきを追加したが、1人では食べきれない程の量があり、おいしかったことは覚えている。

次の3枚の写真は、燈台のほうを廻ったときに写したものである。



以下は金剛福寺で撮った写真である



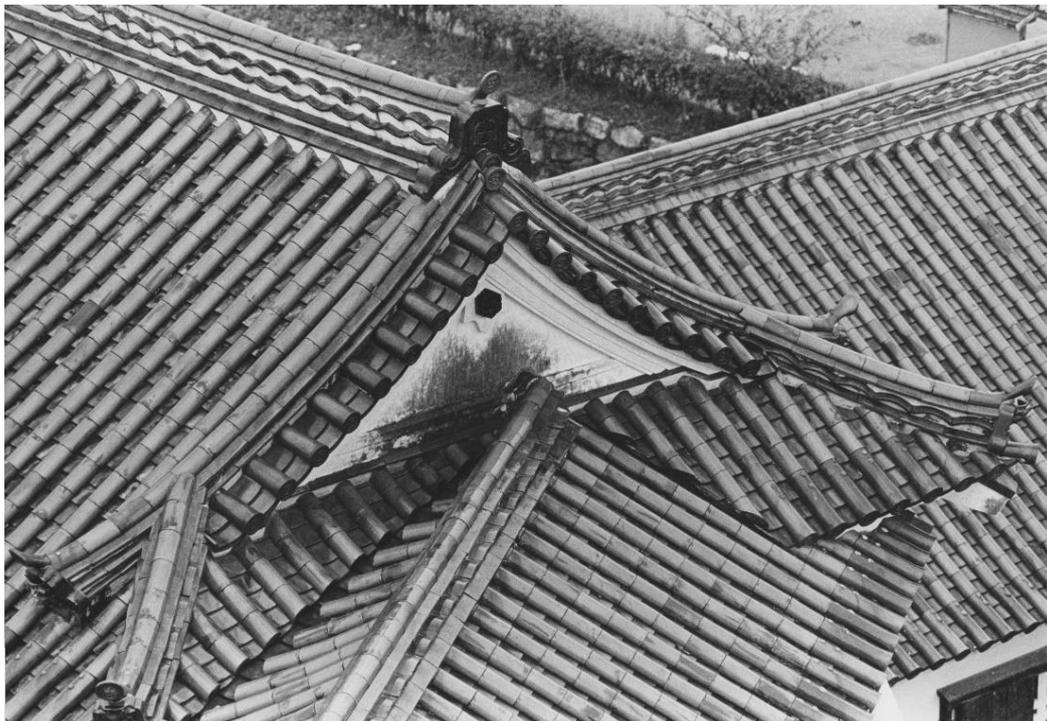
全く記憶になかったが、札所石仏と思われる石仏の写真撮っていた。Google Map 画像を見ていると、当時は気がつかなかった石仏が、整備されているケースが多く見られる。

高知城

高知に着いたのは昼頃であったと思う。よさこい節でも有名な‘はりまや橋’を見た後、高知城に行った。高知では、高知城の写真のみである。



上の左の写真は天守閣を撮ったもので、他の写真は天守閣から撮ったものである。上右の写真から、この時は雨が降っていた。



雨が降っていたことと、セミナー後5泊していて、セミナーを含めれば10日になるので、疲労気味あるいは飽和状態的であったかもしれないことから、ここで旅を打ち切ることにした。

フェリー

帰ることに決め、高知駅に向かった。預けていた荷物を受け取ることと帰り方を探るためである。JRを利用した場合は、瀬戸大橋の開通は1988年ということから、乗り換えが、高松・宇野・岡山・大阪の可能性があったことと、睡眠を考えればフェリーのほうが優るであろうということからフェリーを選んだ。

Wikipedia「大阪高知特急フェリー」では、

1970年に大阪高知フェリー株式会社を設立され、1972年に土佐特急フェリー株式会社を合併し、大阪高知特急フェリー株式会社に商号変更。

2005年に、大阪からの最終便が高知に到着し、35年の歴史に幕を閉じる。

ということである。また、「Yahoo 知恵袋」では

運賃も4610円～と高知・大阪間で最安だったんですが13時間半掛かりその後の明石海峡大橋開通以降高速バスが増発した為シェアが奪われ会社も倒産しました。

との答えが載っている。

大阪南港に早朝に着き、近い地下鉄の駅(恐らく玉手)までタクシーしか手段がなかった、(ニュートラムは1981年)

長距離フェリーは、かなり沖合を通るため、入出港時以外は海しか見えない。次の写真は月明りを撮ったものである。





あとがき

宇和でも連泊をした。近い距離の移動を除き、写真旅行では、連泊以上が必要であることを痛感した。このためには、連泊に値するかどうかの判断をする必要があり、事前に方法を集めることが必要となる。当時では、新日本ガイドの記事から判断するしかなかった。

ここでは、海岸からと遊覧船からの風景写真が主となった。船からの写真撮影は車窓写真と似ているが、速度が遅いことにより少し楽といえる。それでも構図を考えているうちにシャッターチャンス逃すことは度々あった。